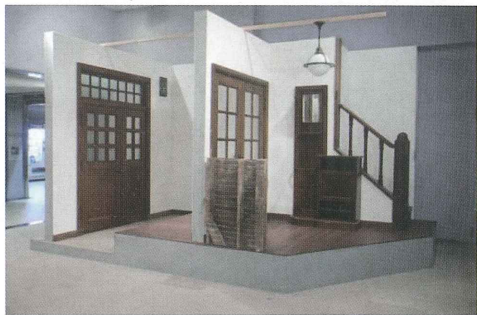


渡邊錠太郎及び同邸関係資料並びに柳井平八関係資料



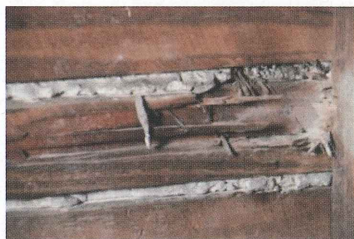
内側扉・階段・弾痕のある壁（展示風景）



棟札



弾痕のある座卓（拡大）



弾痕のある壁（拡大）

- 〔指定年月日〕平成二二年二月一〇日  
平成二三年二月九日追加指定
- 〔種別〕指定有形文化財（歴史資料）
- 〔名称〕渡邊錠太郎及び同邸関係資料並びに柳井平八関係資料
- 〔点数〕三四四点
- 〔所有者等〕杉並区教育委員会
- 〔所在地等〕大宮一―二〇―八（郷土博物館内）

有形文化財（歴史資料）

渡邊錠太郎及び同邸関係資料並びに  
柳井平八関係資料

昭和十一年（一九三六）二月二六日午前六時、斎藤内大臣を襲撃した部隊の内、下士官兵二九名が、第二次行動として杉並区上荻窪三一二番地（現上荻二丁目七番）にあった渡邊錠太郎教育総監私邸を襲撃した。玄関の内扉を挟んで警護に当たっていた憲兵二名と銃撃戦となり、庭に回った部隊が、内部に侵入し、教育総監を銃撃射殺した（二・二六事件）。

渡邊錠太郎邸は、陸軍技師柳井平八の設計で昭和七年に上棟した延床五八坪一合（約一九二㎡）の木造二階建ての和風建築で、玄関脇の応接間など一部に洋風を取り入れていた。平成二〇年（二〇〇八）二月二七日から取り壊され、部材の一部等が区へ寄贈された。特に注目すべき資料は、当時の弾痕をとどめる壁面と監胎漆器製座卓で、前者は決起部隊と憲兵との銃撃戦時につけられた銃痕と見られ、後者は、次女和子が父の最期を見届けながら身を隠した銃痕（修理痕）の残る座卓。

渡邊錠太郎関係資料の内、ドイツ留学中の射撃優勝額は、事件前後にエピソードとして登場する渡邊の腕前を証明する資料。また、山縣関係資料は、渡邊が副官をしていた当時の山縣の墨書を卷子仕立にした「山縣元帥零墨」等で、山縣と渡邊の師弟関係を彷彿とさせる資料。

柳井平八関係資料の内、渡邊の形見分けコートは渡邊と柳井との関係を象徴しており、渡邊邸の設計図面等は渡邊邸の全貌を伝える資料。

資料は二・二六事件の舞台渡邊錠太郎邸が杉並にあったことを証する資料であり、渡邊関係資料は軍内部と山縣有朋との関係を示すとともに、昭和の重大事件と杉並との関係を証明する資料として貴重な資料である。また柳井関係資料は渡邊邸の設計のみならず、陸軍の建築技術者としての活動を示す貴重な資料である。

【文化財所在地】

